筑 波 大 学

美術品の寄附について

概　　要

石井昭氏（株式会社図書館流通センター代表取締役会長）から、筑波大学の教育研究の振興を目的として、絵画 25 点及び陶磁器 61 点の寄贈がありました。

これらの寄贈作品は、石井昭氏が個人的に愛好する目的で収集したもので、いずれも美術品として高い価値を有するものであり、筑波大学の芸術分野における教育研究に大いに貢献するものと期待されます。

主要な作品

絵画

藤田嗣治（ふじたつぐはる）作 ≪坐せる裸婦≫ 1926 年作　油彩画

国吉康雄（くによしやすお）作 ≪鯨に驚く姉妹≫ 1923 年作　油彩画

瑛九（えいきゅう）作 ≪地表≫　1959 年作　油彩画

陶磁器

≪青花唐草文管耳瓶（せいかからくさもんかんじへい）≫　景徳鎮窯（けいとくちんよう）　18 世紀

≪色絵牡丹文大皿（いろえぼたんもんおおざら）（古九谷青手（こくたにあおて））≫　有田　江戸時代

≪五彩牡丹鳳凰文盤（ごさいぼたんほうおうもんばん）≫　漳州窯（しょうしゅうよう）　明時代末

利用計画

・美術史的調査・研究の成果による『作品目録（写真・データ入り）』の刊行

・筑波大学総合交流会館（建設予定）内ギャラリーでの展示公開

・茨城県つくば美術館での特別展による展示公開

問合せ先：体芸支援室

電話：８５３－２７９１

藤田嗣治（ふじたつぐはる）　≪坐せる裸婦≫　1926 年

グラファイト,紙;薄カルトンに貼付　43.3×63.3cm

２０世紀初頭のパリで活躍した異邦人画家「エコール･ド･パリ」を代表する日本人画家。本作品は、滞仏中に手がけた詩情豊かな女性像の典型。乳白色の質感が「グラン･フォン･ブラン（素晴らしい白地）」と絶讃された一連の油彩画でこそないものの、彼の秀でた素描力を伝える佳作。

国吉康雄（くによしやすお）　≪鯨に驚く姉妹≫　19~~26~~23年　油彩,麻布　38.7×56.5cm

20 世紀前半にアメリカで揺るぎない評価を得て活躍した日本人洋画家。平面的であるいっぽう、キュビスムを想起させる、牧歌的で素朴な主題による本作は、1930 年代の悲劇的相貌をおびる自然主義的な国吉特有の女性像の萌芽を見せる作例。

瑛九（えいきゅう）≪地表≫　1959 年　油彩,麻布　45.3×38.0cm

戦前の「前衛」美術運動に鮮明な足跡を標し、戦後芸術の指導的立場にあった画家。病歿の前年に描かれた本作は、明滅する色彩の輝きが浮遊する、捉えどころのない心の淵や小宇宙を象徴する。

≪色絵牡丹文大皿（古九谷青手）≫　有田　江戸時代　41.5×9.7cm

俗に青手と呼ばれる作品は、緑や黄を使って大皿や大鉢などの表面を塗りつぶすのが特徴。本品も、濃厚な色彩と画面いっぱいに施された牡丹文様がダイナミックな古九谷らしさを与える。

≪五彩牡丹鳳凰文盤≫　漳州窯　明時代末　39.6×8.3cm

「呉州手」は、明末に中国福建省の漳州で海外向けにさかんに焼成されたやきもの。数ある呉州赤絵盤のなかで、類品も稀少な優れた作例。

≪青花唐草文管耳瓶≫　景徳鎮窯　18 世紀　径 38.5×高 53cm

頚の左右に、管状の耳を付けた大型瓶。「青花」とは、白磁の釉下にコバルト顔料で絵付けが施された染付。中国古代の青銅器に倣った外見と、当時も声価の高かった明時代初期の官窯に倣った装飾紋様。清朝官窯の学究的側面もよく伺われる、格式高い作品。